

会派行政視察報告書

報告者 (会派等) 創政・改革クラブ

1. 講義開催日	令和6年1月17日（水）	
2. 視察・研修テーマ	公共事業である複合施設「藤-teria（ふじてりあ）」の整備・運営における官民連携の在り方を研修視察する。	
3. 視察・研修項目	1. PPP/PFI 事業の計画から完成までの経過 2. PFI 事業におけるメリットと課題 3. 施設供用後の状況	
4. 説明者	1. 藤沢市企画制作部企画政策課 主幹 塩野 充彦 職員 2. 藤沢市企画制作部企画政策課 公共施設再整備担当 石丸 悠介 職員	
5. 研修内容	ア. 説明者による資料説明と質疑応答	《事前質問状》 ① 施設建設の背景は ② 施設概要は ③ 施設建設の目的において、PFI 手法のメリットと捉えられたことは ④ PFI 事業推進における発案から実行までの事業フローは ⑤ PFI 事業推進における行政側の課題は ⑥ PFI 事業推進における民間事業者側の課題は ⑦ PFI 事業推進における官民の認識のズレは感じられたか ⑧ PFI 事業推進において行政が行った調査や研究は ⑨ 供用開始後における新たな問題の発見は ⑩ 供用開始後に改めて良かったと思われることは ⑪ 住民の合意形成や意識の共有、またプロセスにおける反応は 《施設見学・スタッフ感想聴取》※公共エリア ❶ 藤沢市立藤が岡保育園 ❷ 藤が岡集いの広場 ❸ 藤が岡市民の家 ❹ チンチロ児童クラブ ❺ 大道子どもの家（わくわくランド）

	イ.内 容 ※別添付資料	① 保育園施設の老朽化から事業化の検討。また、地域の子育て関連施設が分散しており、利便性に課題があったため、機能集約を進めると同時に公共施設の効率的な維持管理を進める必要があった。 ② ※資料1 藤沢市パンフレット参照 ③ ・設計から維持管理まで一貫して PFI 事業者が担うことで安全管理やメンテナンスのしやすさを考慮した施設整備ができた。 ・基本設計・実施設計・設計監理・建設施工・維持管理ごとに発注する時間と労力を省略できた ・事業全体の費用を圧縮できた ④ H26 年度：検討開始 H27 年度：基本構想策定 H28 年度：PFI 方式に基づく実施方針策定 H29 年度公募型プロポーザル H30 年度：基本設計 R 元年度：実施設計・建設 R2 年度：建設 R3 年度：供用開始 ※ 資料2 「再整備プラン事業化フロー」 ⑤ ・PFI を含む PPP のメリットとデメリットを市民、市内事業者、市議会に理解してもらうこと ・公平性を確保したうえで、民間事業者の裁量を担保すること ・事業を担う職員と PFI 事業者の担当者を固定することが難しいこと ⑥ コンソーシアムを組む場合は、企業間の負担と利益を調整しコントロールすること ⑦ 立場が異なるため、細かい意識のずれはあるが、大きな目的は共通で認識できていると考えている。 ⑧ サウンディング型市場調査による検討。「藤沢市公共資産活用等検討委員会」を設置して研究を進める。並行して「再整備プラン事業所管課」を設置し同時進行。 ⑨ 開所後、特に大きな問題は感じていない ⑩ 官民連携イベントの開催を通じて地域住民や施設利用者同士の交流が盛んになった。 ⑪ PFI 事業に疑念を抱く住民はあったが、説明と対話を重ねて最終的には理解いただけた。 (主な意見) ・民間丸投げで住民の意見が反映されないのでは ・PFI 事業者が倒産したらサービスが受けられない
--	-------------------------	--

	ウ. 高山駅西地区複合・多機能施設整備基本計画に係る事業手法（案）における課題	R6/1/24、市より当該施設の事業手法について、DBOまたは運営者先行選定方式としたい旨が議会特別委員会に伝えられた。 《市の提案に対する疑問と課題》 ○ショッピングセンターや映画館などの民間業者による付加機能は、分築するほど大規模なものが必要か。本来機能に魅力と付加価値を与える程度のもので十分ではないのか。当初の目的から少し逸脱して独り歩きをしていないか ○民間資金の活用がない形式での運営手法として、市の提案を現時点で確定するには課題が多すぎないか ・市にとってのメリットの確証が持てない ・利用者にとってのメリットの確証が持てない ・運営者先行選定方式の必然性が理解できない ・事業者との対話から当結論に理論が導かれたプロセスと市の価値観がよくわからない
6. 今後に活かしたい学び		藤沢市で学んだPFI方式をもとに、提案の概要についてももう少し高山市と議論を深める必要を感じる。また行政の決定プロセスの検証についても調査と議論を深めるべきであると考え。 整備の手法は、現在の案を固定化せずにそれをたたき台としてさらに幅広い視野で検討を進めるべきであるが、それ以前に本来の目的に戻って、どういった機能をどういった規模で組み込むべきなのかを、もう少し確定させるプロセスを先行させるべきではないか。 その間に、整備手法の研究をもう少し深め、最終的な結論にすべきであると考え。